



みんなのひろば

大山町に 移り住んで

牧 大介
(のぞみ区)

大阪の泉州という地区で育った私ですが、8年前の4月、大山町に家族で引っ越してきました。母の実家が名和にあるため、幼い頃から盆や正月には、よく遊びに来ていました。きれいな海と大山がすぐ近くにあり、一年の四季を感じさせてく

れるこの町が好きで、上の子が生まれた時に、「子育てをするなら、名和みたいな場所がいい」その思いを家族に伝え、一緒に移ってきました。現在は夫婦共に地元で仕事もさせてもらい、父や母も近くにいるので孫二人をよくみてもらいます。県

外の方に「きれいな海と山が近くにあって、いい所だね」とは言われますが、「ここに住みたい」そう言ってもらえるような、そして私達と同じ様な考えの若い夫婦が、気兼ね無しに移って来られるような町になって欲しいです。

観光ボランティア ガイドの活動

阿部 誠
(上中高)

私たち「大山町ガイドボランティアの会」は平成18年に大山恵みの里構想の一環として養成され、現在21名の会員が活動しています。

「ク」など、山岳信仰の歴史や生息する動植物に對して、歴史の深さと自然の素晴らしさに感動し、もう一度、大山を訪れたいと言われます。

私も四季折々の植生など、新しい発見や感動を味わっています。また、案内が終わり、お客様から「ありがとうございました。」の感謝の一言に大きな喜びを感じます。

私たちの会は少ない予算で運営していますが、行政からの支援が徐々に希薄となつてきています。新ガイドの募集・養成や会員のスキルアップ研修など行政の支援を要望します。

大切な人は

片桐研二
(殿河内)

「人生で一番大切な人」わかっていそうでなかなか判らない。その人に何かがあれば事実としてわが身に帰ってくる。一番近くにおいて気付きそうで気付かない。そう、我が古女房。毎日毎日掃除、洗濯、炊事そして子育てと、それが終われば今度

は施設に入った母のお世話にかかり農作業も一緒にしてあげて気が付けばあつという間に50歳を過ぎ、これからの楽しみは初孫の誕生になりました。

先日行った健康診断で異常は見つからなかったものの、年も年。心配の種は尽きません。

家内に何かあれば家事全てを自分でしなければいけないと思うとたいへんさが実感できます。家事を手伝ったことのない私が家内をいたわり、これからの人生を手を携え共に元気で歩むありがたさを実感する今日この頃です。

あとがき

議会は住民を代表し、住民の期待や要求を町の政策に反映させなければならぬ。住民の利害を政治的に調整する機能を持つものである。意識や行動の変化に的確に対応しなければならぬ。したがって、議会報の発行により、住民の代表者である議会がその運営や活動の実態を住民に周知することは、責務でもある。



- 議 長 荒松 廣志
- 《発行責任者》
- 《広報委員会》
- 委員長 西山富三郎
 - 副委員長 大森 正治
 - 委員 池田 満正
 - 委員 杉谷 洋一
 - 委員 米本 隆記
 - 委員 竹口 大紀